館の運営方針	歴史のまち佐倉の生活・文化の向上と、ふるさと佐倉のまちづくりに携わる市民の連帯意識を高めるため、だれもが学習しやすい公民館、集会活動のよりどころとなる公民館、親睦を深める場となる公民館として生涯学習のねらいを達成すべく、社会教育活動の中心施設としてその役割を果たすことに努める。
ジャンルの目標	
子どもたちに、様々なテーマで学習機会を提供することにより、自然・環境・スポーツ・芸術等に触れ合う機会を作るとともに、それらを通して子どもたちの心と体の育成を目標とする。	

★個別事業評価一覧

No.	事業名	事業の内容
①	ジュニアカヌースクール	子ども達の印旛沼に関する関心が薄れつつある。カヌー(スポーツ)を通し指導者が水辺の安全性と危険性の両面を指導しています。安全に楽しく遊ぶ場所や機会が失われている今日、公民館の講座は貴重だと考えます。また、子どもたちが印旛沼の自然に関心を持ち、成長していくことをねらいとする。
②	子どもの居場所作り	今日の少子化の流れの中で、子ども達の社会性とコミュニケーション能力を育むためには、地域の様々な人達との関わりが大切である。一方現状では、安全に楽しく遊ぶ場所や機会が失われつつあり、子ども自身の手で「居場所」を作ることが難しい環境となってきた。そのような中で、夏休みの子ども達の居場所を公民館が提供し、公民館を拠点に活動する団体が子ども達を指導する事により、地域内交流、世代間交流を促すとともに、ボランティアとして講師を担当する団体が日頃の学習の成果を発揮し、学習を深めることをねらいとする。
③	通学合宿	少子化の流れの中で、子ども達の社会性とコミュニケーション能力を育むためには、地域の様々な人達との関わりが大切である。また、自分で生活一般を熟すことで「生きる力」を育みます。併せて親が一定期間、子どもと離れて生活することで、日頃の親子関係を見直し、子どもだけでなく親の成長も促します。
④	親子映画会	青少年教育の一環で行っている事業である。映像をとおして地域の子どもの健全育成を図ることは重要である。音楽ホールはアクセスも良く、子ども達が気軽に映画に親しむ機会を提供する。
⑤	水辺観察会 「夏休み子供水辺探検ツアー」	少子高齢化に伴い子どもたちの人数が減少しているとともに、印旛沼の浄化には時間がかかると思われるが、この講座で学ぶ印旛沼の自然に関する講義の受講・観察をとおして子どもたちの学習意欲を高め成長を継続して後押ししていく一助を担う。
⑥	佐倉市・女子美術大学連携協働事業 「JOSHIBIワークショップ」	参加児童は芸術を手段として自分の「考えていること」「感じていること」「伝えたいこと」を表現することを体験し、学生は現場での実践をとおして芸術教育の意義を学ぶことをねらいとする。
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		

★ジャンル総合評価

個別事業における、ねらい・運営方法・学習テーマ・対象者・講師・資料・広報等、事業全般			
企画	企画段階での課題と解決策	A	A:各個別事業の想定課題は正しかった。 B:各個別事業の想定課題はまあ正しかった。 C:個別事業の想定課題が違っていたところがある。 i:途中で変更した。 ii:そのまま進めた。
実施	実施しての課題と解決策	B	A:各個別事業の想定課題の解決は進んだ。 B:各個別事業の想定課題は解決はまあ進んだ。 C:各個別事業の想定課題とは別の課題が出た。 i:別の方向に進めた。 ii:そのまま進めた。
点検	点検しての課題と展望策		ジュニアカヌースクールについては、公民館の事業としてはほぼ役割を終えているので、事業の見直し等について検討を進めたい。また、参加者が少ない事業については、参加者の募集方法について様々な面から検討していきたい。
改善	次年度への課題と展望策	B	A:事業拡大。 B:現状規模での継続。 C:事業縮小。 D:目的達成により終了。 E:統合・改善・その他 ()

総合評価	
B	事業規模
	A:適切で成果が得られている。
	B:課題あり、成果が得られている。
	C:課題あり、成果があまりない。
	D:成果が得られていない。
E:現段階では判断できない。	

成果
各事業について、事業の狙いはほぼ達成できている。具体的には、ジュニアカヌースクールでは自然やスポーツとの触れ合い、子どもの居場所作りでは講師になっていただいた地域の方との触れ合い、通学合宿では日頃の親子関係の見直し、夏休み子供水辺点検ツアーでは印旛沼の観察や水生生物を通じた自然の大切さの理解、JOSHIBIワークショップでは芸術を手段とした表現、などである。
課題
事業の実施に関しては、毎年事業のねらいや効果等を見直すとともに、事業成果や課題について十分に把握し、より良い事業にしていかなければならない。また、参加者の募集については、良い事業を計画しても参加者が少ないと十分な効果が得られないことから、募集記事やチラシの作成・PRの方法など、多角的な検討が必要である。

☆公民館運営審議委員意見

総合評価	委員① A	夏休みに子どもたちが安全に安心して過ごす場所を提供することはとても有意義であると思う。さらに、子どもたちが地域の様々な人々との交流を通して社会性を身につけていくのは子どもの発達にとって欠かすことが出来ないと思う。今後とも継続をお願いしたい。
総合評価	委員② A	講座内容について、要望等をきいて講座開設をできればよい。
総合評価	委員③ A	公民館近くの学校4校を対象に、夏休みの期間中、多くの講座を用意したことは大変すばらしいと思う。
総合評価	委員④ A	佐倉地区の地元、武家屋敷への見学、親子で参加勉強でき、子どもの自由研究になり、とてもよい企画と思いました。
総合評価	委員⑤ A	学校生活では体験することができない子どもの居場所づくり「夏休みなんでもチャレンジ」は、いけばな教室や子どもそば打ち体験教室、親子で学ぶ武家屋敷と侍の暮らし等内容もよく検討されていると思いました。長い休みには、子どもの居場所が心配になる保護者にとってもこのような事業は安心できる子どもの居場所になっていると思います。講師が公民館利用グループであることや、子ども達との世代間の交流ができる事などからも今後も継続してください。
総合評価	委員⑥ A	少子化の中で、地域に同年齢・異年齢の児童・生徒が少ない、いない環境が広がっている。コミュニケーション能力、人間性を育む環境や機会が失われつつある今、このような事業の果たす役割は大きい。塾、習い事、部活あるいはゲームで児童・生徒は「忙しい」毎日を送り、社会というものがとても狭いものとなっている。子どもたちの学びのよりどころである学校には、夏休みという大きな穴(それが学校教育上大きな意味を持つものであっても)があり、この穴を有意義に埋めていくことも社会教育活動の一つの課題ではないかと思う。公民館活動団体の協力を得ながら多彩なプログラムで実施されているこの事業の魅力度は高い。公民館活動を地域に根ざした活動とし、世代間交流も図れるという効果も持っている。より充実したプログラム、より多くの子どもを対象とできるような仕組みを望む。人気講座、あまり人気がない講座が出てくるのは仕方がないことであり、だからといって不人気講座を閉ざすのではなく、少数であっても希望者の受け皿として用意されていて欲しいと思う。人気講座の「予想」はつき、不人気講座の「予想」もつくとは思いますが、講師確保の課題はあるとしても、より広い受け皿を作り、子どもたちに働きかけて欲しいと思う。何よりも参加者の多寡で評価されるべき事業ではない。公民館活動で育っている地域人材が積極的に活用されていることを含め、個別事業総合評価Aとする。 なお、多様な受け皿づくりのために、まちなかの個人、他公民館で活動している個人・団体の協力、他の施設の利用を図りながら受け皿を広げる努力が、これまで以上に行われることを期待する。例えば……社会教育活動として行われたことがあるが、作文教室⇒10年後の自分に当てて手紙を書く⇒和田コミセンの缶詰施設に路線バスで行き、地域交流をしながら作文・未来を缶詰にして持ち帰る。
総合評価	委員⑦ A	子どもたちの現状(安全な遊び場の消失と自身での居場所づくりの困難な環境)から居場所の提供とそこに関わる支援者グループの学習の成果を発揮する機会としての企画。「子どもの居場所づくり」はだれが作るのか?約1か月半に11回の企画は多くの調整が必要であると思われませんが、何回か「居場所づくり」を子どもたち自身で企画してはどうでしょうか。
総合評価	委員⑧ A	子どもの居場所づくり「夏休み何でもチャレンジ」 成長期の大切な時期に夏休みを利用して、積極的に学習に参加する機会を提供し、また、交友関係を深める事業である。 事業内容が多様であることと早からの準備が必要であるため、苦労があると史料されますが今後も継続されることを期待します。
総合評価	委員⑨ A	公民館を利用されているサークルの方と子どもたちが、相互に良い成果を得られる事業として、高く評価したい。リピーター児童を参加の偏りにとらえず、他の児童へ企画の魅力伝えてもらうことも大切。リピーター児童が参加者を連れてきてくれる可能性もあると思う。追加募集のチラシ「武家屋敷」は、内容が伝わりやすく工夫されている。「かるた」のすばらしさを伝える工夫が必要では。
総合評価	委員⑩ A	昔は、学校から帰宅後先輩も交え、大勢でいろいろな遊びを通してコミュニケーションの大切さを自然に学べましたが、今日は少子化の影響もあってそういう交流の場が無くなってきました。公民館が地域の人たちの協力を得ながら、子どもの「居場所」を提供することは有意義なことと思います。また、参加した子ども達のほとんどが楽しんでいる様子は、子ども達にとって非常に良い「居場所」であると感じられます。ただ、募集用のポスターに工夫がほしい。
総合評価	委員⑪ A	内容の濃い事業だと思います。プレゼンテーションにもう一工夫してみてください。

委員⑫		<p>○少子高齢化のなかで、ボランティアで行われている意義は大きい</p> <p>○核家族が進む中で世代を超えた取り組みは大いに評価できる</p> <p>○参加者の多い講座は、参加を妨げない考慮が必要と思われる</p>
総合評価	B	

委員⑬		<p>○夏休み中の子供達にとって活動の場が沢山用意されていることはありがたいだろう。バラエティに富んでいるし、講師を勤めてくれた人達の活動も活性化されたとかで一挙両得？</p> <p>○欲を云えばもっと身体を動かすものも用意されたら一層よいのではないか。(講師、場所、施設の問題はあろうが)</p>
総合評価	B	

委員⑭		<p>青少年による 学ぶ楽しさを 地域の人々との交流や触れ合いを通じて 実感して欲しいと思う。なんでもチャレンジの中に 例えば 絵画サークル等の指導者や「JOSHIBIワークショップ」に依る 水彩画(小学生)、油彩画(中学生)の描き方教室を開いてもらい 参加者の作品を 公民館に展示して活動の成果を発表する。</p>
総合評価	A	

委員⑮		<p>グループ懇親会時に講師を募集したりして、職員の方々が地域ぐるみの事業として、早くから準備・展開されている点は立派だと思います。プログラムの中で、①花とあそぼう、②かるた大会 は、低学年・高学年に分けて曜日を設定されたらどうでしょうか？ この分野は低・高では、若干「語彙・センス」の理解力に差があると思います。</p>
総合評価	A	